
For Your Love

きんぐ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

For Your Love

【NZT-アード】

NZ6372D

【作者名】

きんぐ

【あらすじ】

卒業とともに卒業する。私はたくさんの想いを胸に・・・

あなたは、

いつも冷たくて、

氷のようだった。

いつも冷静で、

頭が良くて、

私とは全然違う。

選ぶ道も違ったんだ。

だから、

高校も違つんだよね。

あと何時間の恋なんだろう・・・

あなたに恋をして、

私、間違っていたのかな？

でも、私は、

あなたに恋をして間違っていなって

そつぬつてゐかかる。

だから、

今日の1日、

精一杯恋させてね。

2008年3月11日

神田中学校卒業式

3年間通つたこの学校との別れ。

私は、いろいろな思いを胸に、今この場所にいる。

中学の3年間は、あつと/or/う間だつた。

喧嘩、恋愛、友情、団結、そして別れと出会い。

全部が良いものだつたとは限らない。中には、最悪な事もあつた。

人生に迷いを感じたことも。

でも、それでも良いと思つてゐるのが今の私。

これは、やつぱり充実していたところじがおつたからなのだらつ
か。

それとも・・・

やつぱり、あなたの存在があつたから?

私は、今日ある決意をしてくる。

中学校卒業とともに、

あなたへの恋も

卒業する。

恋人同士になれなかつたからではない。

道が違うからでもない。

けじめを付けたいから。

そういうたら、逃げに聞こえるのかも知れない。

でも、後悔はしたくない。

もういいんだ。

それで、あなたが満足なら。

どうせ、私はあなたに迷惑ばかり掛けていた。

だから、

今日限りで、もうやめます。

私は、

あなたの方が好きです。

大好きです。

後ろ姿も、横顔も、
笑い顔も。

怒った顔はあまり好きじゃないけど。。。

でも、全てが好きだった。

みんなに反対された。

「あんなのが良いの?」

「あれは無いだろ!」

色々言われた。

それでも、私は好きだった。

あなたは1組、私は4組。

だから、体育館に座つてゐる今、

私はあなたの後ろ姿しか見えない。

あなたの背中は、いつになく寂しそう。

私は、今にも泣きそり。

あなたが寂しくなると、私もきっと寂しくなる。

あなたの名前、格好良かつた。

あなたの担任が、

「飯島 直樹」

と呼んだ後のあなたの

「はい」

といつ返事、

これからずっと耳に残るよひにしておきたい。

私は卒業証書をもらひ、

座席に着いた後、

あることを思い出していた。

そう、これは、もう一年半も前のこと。

あなたと出会ったときのこと。

私があなたに恋をしたのは、中学2年のとき。私は体操部。あなたは剣道部。初めて同じクラスになつて、理科のグループが同じだつた。

はじめの頃は、あまり仲が良くなくて、喧嘩もしていたほどだつた。

あなたが

「おい、実験用具もつてこいよ」とこゝりと、

「知らん!お前が持つてこい!」

「は?誰に向かっていってんだよ

「お前だよ!」

「・・・ムカツク」

「死ね〜〜〜」

こんな会話しかしなかつた。

最初は嫌いだつたから。

私は、この日は大会じゃなかつた。でも、あなたは大会に行つた。
神田中があなたの試合会場。放課後、私が部活をやつているとき、
剣道着を着たあなたが現れた。

いつもとは違う姿で、少しあつこいいな、と思つていた。

9月28日

新人大会2回戦

あなたはこの日、学校にいた。私も学校にいた。
人が少ないと言つることもあり、よく話した。
少しづつ惹かれていつたんだ。

理科の時間、ワークを出そうか出さないか迷つていて私のノートを、
あなたが変わりに出してくれた。

これがきっかけで、私はあなたに恋をした。

きつかけがちつぽけすぎで、私はこの話を誰にも言つていらない。

また、馬鹿にされるだけだから。この日を境に、意識しばじめたの
が、顔を合わせることすら恥ずかしくなつてきた。
あなたは、それを知らずに話しかけてくる。

「昨日のドラマみた？」

「うん。」

「昨日、何時に寝た？」

「10時かな」

「何があったの？」

「別に」

「変だよ」

「前からだよ」

「ふうん」

こんな会話しか出来無くなっちゃうんだ。

でも、こんな恋はすぐ終わるだろ。きっと、また違う人に移り変わるだろ。

そう思っていた。

でも、

違ったんだ。日が経つにつれて比例するかのように気持ちは高くなる。そして、比例するかのように私の態度もおかしくなっていく。ある日、本橋という男子が、あなたの電話番号を私に教えてきた。
「好きなんでしょう？メールしなよ」
すごく恥ずかしかったけど、凄く嬉しかった。

早速メールを送った。

「2年3組の前田エリカだよ！本橋に聞いちゃったー！」

来ない・・・やっぱり送らない方が良かつたのかな。

・・・ブーンブーンブーン

バイブだつた。

あつー来た！

「わかった。登録しちゃよ。でも、あんまりメール送らない方がいいよ」

「何で？」

「返事早いですね」

「そうかな」

「うん、そうだよ。」

「普通だよ」

「ふーん。もうメール送らないうべきださー」

・・・・・凄くショックだった。

好きな人じやなかつたとしても、この一言はかなり傷つく。それが好きな人からだと更にその傷は深い。

もうメールするのやめよう・・・

でも、学校で話さない分、メールで補いたいと思つたんだ。
だから、メールはした。

だんだん慣れてくれたのか、あなたも普通に返してくれるようにつた。

ある日には、

「明日ヒマっ

と来て、

「何で？」

と答えると、

「遊ぼうかな～みたいな

ときた。でも、私は部活があつたから

「ごめん！明日は午後から部活だわ～

と返していた。

何度もあつたけど、
都合が合わなかつた。

結局1回も遊ばなかつたんだ。

2006年12月末

私は、あなたに告白した。電話だと恥ずかしいし、冬休み中だつたから直接は無理だつたから、メールにした。

「今、メールできる?」

「出来るよ

「寒いね」

「明日からスキー行くんだ」

「うちも来週行くよ!」

「そりなんだー!」

「てか、こんな時に雪のひどつかと思つんだけど

「何?」

「あのね~、ひか、飯島のことすきだつたんだよね~」
送つてゐるときは、そんなに緊張していなかつた。でも、送り終わ
つた後、ものすくへ緊張した。

「ありがとう!」

「いえ・・・別に・・・」

「良く言う勇氣あつたね!」

「凄い緊張した!」

「で、びひます?」

「えつ?」

「だから~びひあるの?」

「うち、ふられてるの?」

「まだ俺返事出さないけど。」

「返事を願いします。」

「

「今は、返事出せません。てか、返事出したところで何があるの?」
・・・はつ?

こいつ、何言つてるの?

意味が分からなかつた。

そして、すぐにあなたからのメールが届いた。

「返事は今度会つたときにでも出すよ。」

はああ〜。

もう終わつた・・・。

親友の真美に相談したところ、真美はあなたからの相談も受けていたらしい。

2007年1月

あなたからの返事をもらつた。

「まだお互いのこと良く知り合つてないからお友達からね」

あつやりふられてんじやん!

でも、諦められなかつた。まだ好きだつた。
あれからあまり話す機会はなくなつたけど、
好きでいることに変わりはなかつた。

2007年4月

私は晴れて3年生に進級した。

始業式の朝、昇降口に貼つてある新しいクラス表を見に行つた。

自分の名前を探すよりも先に、あなたの名前を探していた。飯島・

・飯島・・・

「飯島 直樹」

あつた！

あなたのクラスは、1組だった。あなたは、飯島だから、前田の私よりも出席番号が早い。

同じクラスになつている期待を胸に、その下に私の名前があるかを確認した。

・・・・・・・・・無い。

前田・・・前田・・・

「前田 ハリカ」

・・・・・・・・4組・・・

涙が出そうだった。
クラスが離れた。

学校では泣かないよつこして、家に帰つて泣いた。泣きたい分だけ泣いた。

メールはたくさんしたし、話す機会も増えたが、接点はかなり減つた。

クラスが離れればこのぐらいだろう。

でも、私は嫉妬しまくった。

仲良くしていいる女子がいたら、ヤキモチを焼いていた。

合唱コンクール、あなたは私とは違う歌を、違う人たちと歌つていた。凄く悲しくて、泣いていた。

そして、もう気がつけば入試が近い2008年1月。

私は、私立高校は自分のレベルにあった学校と、少し低い学校と少しレベルの高い学校を受験した。

あなたは、和やしの受けた学校とかぶつていなかつた。

もつと頭の良い学校と、日本の名門校と、あなたにとつてはかなりレベルの低い学校だつた。

私は、3校無事に合格することが出来た。
あなたもきっと合格したでしょう。

あなたは秘密主義だから、何も分からぬ

ただひとつ、県立高校も志望校が違うこと。

私はR高校。

あなたはT高校。

私は、推薦をもらっていた。

あなたは一般で行くと言つていた。

志望校が違うのを知ったときも私は泣いた。

最近涙腺が弱くなってきた。

4月からは、あなたと私はクラスが離れるどころか、生活する環境すら変わってしまう。

あなたが誰と仲良くして、誰に恋をして、誰と恋人になつて、誰と喧嘩するのか・・・。

何もかも分からなくなつてしまつ

でも、もう見えない。

あなたの姿は見えないから、嫉妬することも、怒ることもない。

私だって、誰かに恋をして、幸せな高校生ライフも満喫しているかも知れない。

人生なんてそんなもん。

いつかは、あなたのことが好きだったことすら忘れちゃう日が来るかも知れないでしょ。

だから、前に進まなきやいけないんだ。

気がつけば、卒業証書授与はおわっていた。

PTA会長の話や、校長の話、祝電披露とか、凄く長いことももう終わっていた。

生徒会長の話が終わり、卒業生代表あいさつになっていた。

元生徒会会長が代表であいさつをした。
言葉の一つ一つが心に染みた。

仰げば尊し

我が師の恩

教えの庭にも

早幾とせ

思えば一と年

この年月

今こそ別れめ

ござわいりま

仰げば尊しとは、

こんなに感動する歌詞だったとは、今になるまで気がつかなかつた。

そして、卒業生が学年で歌う、
「旅立ちの日」

白い光の中に
山並みは萌えて
遙かな空の果てまでも
君は飛び立つ
限りなく響く
空に心ふるわせ
自由を掛ける鳥よ
振り返ることもせず
勇気を翼に込めて
希望の風に乗り
この広い大空に
夢を託して

懐かしいとの声
ふとよみがえる
いみもないさかいに
泣いたあのとき
心通つた

嬉しさに抱き合つた日よ
みんな過ぎたけれど
思い出強く抱いて
勇気を翼に込めて
希望の風に乗り
この広い大空に
夢を託して

今、別れの時
飛び立とう
未来信じて
弾む若い力信じじて
この広い大空に
今、別れの時
飛び立とう
未来信じて
弾む若い力信じじて
この広い大空に

泣ける。かなり泣ける。会場にすすり泣く声と、ピアノの最後の響き。

私たちには、3年間の締めをこんな形で閉めた。

凄く清々しかった。

良かった。

これで良かつたんだ。

もう悔いはないんだ。

この涙は、悲しいんじゃないんだ。

嬉しいんだ。ここまで来れたことに喜んでいるんだ。

私がやり残したこと。

あなたにお礼を言わなきや。

最後の学級活動が終わった後、
私はあなたのこと待っていた。

「ねえ！」

「あ～びっくりした～

「ちょっと話せる？」「

「いいよ。」

「あの大、」

「江北ちいかない？」

「うん・・・」

「卒業しちゃったんだね」

「だね、早かった！」

「だねーもう高校生だよー」

「で、話つて何？」

「あつ・・・あのさ、「

「うん」

「今まで・・・ありがと」

「うん」

「何かや、違うんだよね」

「うん」

「本当に好きだったよ」

「うん」

「でもや、これ以上好きでいても先に進めないと困つただ

「うん・・・」

「だからね、もうこの気持ちは今日までこなむから」

「うん・・・」

「飯島さん、めいわくばっか掛けてたけど・・・」

「うん・・・」

「何でうんしか言わないの?」

「うん・・・」

「聞いてる?」

「うん・・・」

「もういいしーーじゃあねー!」

「待つてよー!」

「・・・何?」

「ここでは止めないで欲しかった。涙が出そうになつたから。

「泣きたいときは泣いて良いって教えてくれたの、お前だから

「えつ?」

「だから～！泣きたいんでしょ～！泣きなよ」

「嫌だ・・・」

「強がり・・・」

「つるさいー！」

・・・沈黙が続いた。

「俺も・・・」

よく聞き取れなかつた。

「え？」

「だから～！俺も、楽しかつた」

私には、告白よりも嬉しい言葉だつた。

これで、安心して高校に行ける。

このとき、押さえていた涙が、溢れんばかりに溢れた。

あなたは、涙を拭いてくれた。

ありがとう。

あなたには、この言葉しか掛けません。

あなたに会えたことで、人を好きになる喜びを味わえた。
あなたに会えたおかげで、嫉妬した、ヤキモチも焼いた。

あなたのことが、好きで本当によかったです！

ありがとうございます。

好きです。好きです。好きです。好きです。

大好きです。

永遠に
・
・
・

For
Your
Love

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6372d/>

For Your Love

2011年1月14日04時35分発行